

高洲地区社協だより

第68号

平成30年9月20日発行 事務局 高洲地区交流センター Tel 635-1458 Fax 634-027

三世代ふれあいイベント

大道芸人 “あまる&ひっきい” 好評につき今年もやってきました！！



今年も「高洲三世代ふれあいイベント」が、7月21日（土）に高洲地区交流センターで開催されました。昨年大好評だった“あまる”が相棒の“ひっきい”をつれて、再びやって来ました。バルーンアート、ジャグリング、バランス芸、片手で沢山のガラス球をクルクルまわしたり。大苦戦の囃回しでは、何度も何度も挑戦し、最後に成功した時には、会場から大きな拍手が。これも演出？大きなけん玉に合わせて声を出したり手をたたいたり、お客様も参加して楽しく前半が終わりました。

後半は、シンデレラ姫のお話をベースにした様なパントマイムです。みかんの王子様が靴を落としていったみかんのお姫様を探して、客席の子ども達やおばあちゃんの足に靴を合わせに。やがてみかん姫に会ってめでたし、めだたし。

最後に子ども達の質問コーナーで「あまるさんは、芸歴何年ですか？」と聞かれ「学生時代もいれると19年。ひっきいが13年」だそうです。暑い日が続くなか、大勢の方々が参加して楽しいひとときを過ごしました。



こども福祉体験講座

みんなちがっても、おなじ「いのち」 ～絵本の点訳や介護福祉体験を通して～



7月31日(火) 夏休み恒例の「こども福祉体験講座」が開催されました。今年も高洲小・高洲南小から4・5・6年生の児童と、民生児童委員やボランティア活動グループなどから大勢の方々が参加してくれました。

午前中は高洲地区交流センターにて、「点字」を学びました。ピッコラ(点訳)の会員の皆様にご指導いただき、点字器を使って点筆で点字を書いて(打って)いきます。点の打ち方やコツを教わり、点字用紙で練習しました。名前や短い文が打てたら、いよいよ本番「絵本の点訳」です。絵本は、福祉の授業でも用いられる副読本『みんなちがっても、おなじ「いのち」』を使用しました。段落ごとに抜き出した文章を、粘着剤付き透明シートに点字で書き写します。みんな真剣に丁寧に取り組んでいました。出来上がったシートを絵本に貼り付けます。先生方に仕上げていただき、素敵な点字付き絵本ができました。完成品を各校に1冊ずつ頂きましたので、機会があれば手に取ってみてくださいね。

午後は、特別養護老人ホーム「愛華の郷」へ行きました。職員の方から「年を取るということ」や施設が担う役割について大切なお話を聞きました。施設内見学や車椅子を使った福祉車両への乗降体験の後、デイサービス利用の皆さんと交流をしました。自己紹介の後一緒に○×クイズを楽しみました。お年寄りの目線に合わせて丁寧に問題の説明をしている男の子や、仲良く正解を考える女の子に、利用者さんは「孫といふるようだ」「娘の小さいころを思い出す」と言って喜んでくれました。最後に栄養士さんのお話と介護食の試食もあり、とても盛りだくさんな福祉体験の一日でした。今日の体験をこれから的生活や考え方につなげたら良いですね。



地域防災研修

— 身近な見守り活動の事例を学ぶ —

高洲地区社会福祉協議会役員(35名)は、7月27日(金) 富士市社会福祉協議会館において、富士市青葉地区(10町)の福祉推進会会員6名(内社協1名)と研修会をもちました。推進会は、平成23年の東日本大震災の発生を教訓に、支援の必要な方の把握や、防災啓発を兼ね、平成24年から見守り活動を始めました。主な活動としては、75歳以上の高齢者宅に防災グッズ(防災袋、アルミシート、笛付き懐中電灯、オーブナー、パンの缶詰、ペットボトル2本)を配布し、訪問の際には、普段からグッズの説明をしたり、支援が必要な場合は、支援センターに連絡を取ったりして、防災意識を高めてもらうよう心掛けているとのことです。最後に、両地域の活動内容について意見交換して会を終しました。



ここ数年、経験したことない災害が、日本のあちこちで起きています。どの時点で、どこに避難するか、日頃から自分自身でシミュレーションしておくことも大事ではないでしょうか。

～トイレトレーラー出動！～

富士市では全国で1台と言われるトイレトレーラーを所有していると聞き大変驚きました。今回の西日本豪雨災害では、トレーラーに物資を積み込み、岡山県倉敷市まで出動し、避難所の近くにトイレを設置することができ、利用者の方々には、大変感謝されたそうです。

